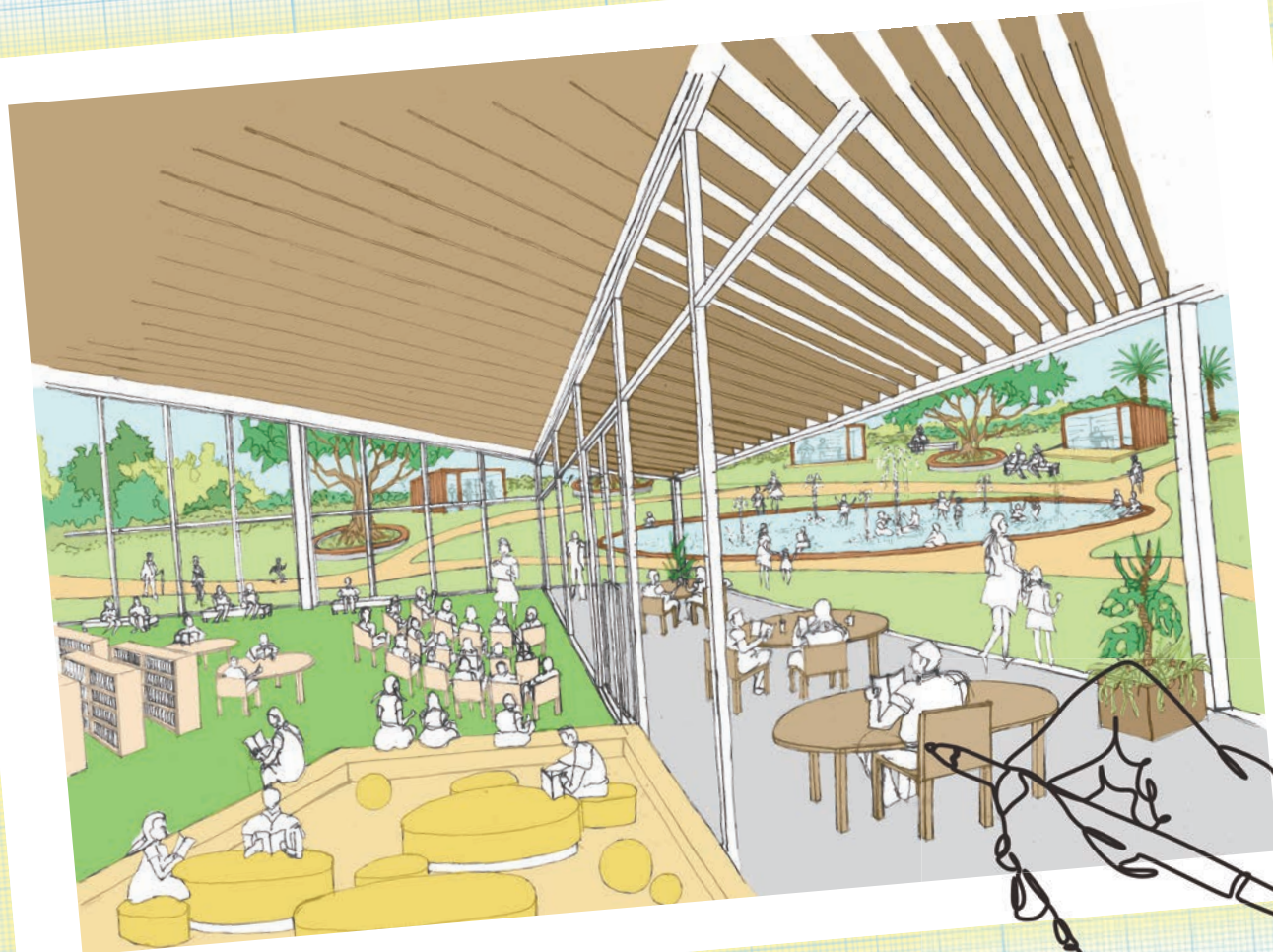


特集

三ツ丫の図書館 (仮称) 読谷村総合情報センター



表紙の写真

新しい図書館のキッズゾーンからガラス越しに
アマハジテラスと水辺空間をのぞむスケッチ

村のうごき (5月末現在 ※カッコ内は前月比)

人口 41,864 (-24)

男 20,573 (-20)

女 21,291 (-4)

世帯数 17,361 (-8)

特集

三つ丁の図書館

(仮称) 読谷村総合情報センター



知と交流の拠点 総合情報センター

(仮称) 読谷村総合情報センター(以降「総合情報センター」)は、村立図書館、行政文書保管庫、村史編集室、青少年センターの4つの施設が一体となった施設です。

この事業ではPFIと呼ばれる手法を用いて、図書館施設の老朽化などハード面の課題と併せて、民間のノウハウを活用し、更に質の高い図書館サービスを提供できる施設を目指しています。

PFIとは・・・
プライベート・ファイナンス・イニシアティブの略で、従来のように村が直接施設整備を行わずに、民間のノウハウ、資金を活用して、民間に施設整備と公共サービスの提供を委ねる手法です。
本事業は、設計・建設・什器備品調達などの建設業務をはじめ、施設の20年間の維持管理業務および図書館運営業務を一括して発注するものです。

新しい図書館は、読谷村役場の南側に整備を予定しており、一年(慰霊の日を除く)を通して10時から22時まで開館し、従来と比べ、多くの方が利用できる施設となります。



(仮称) 読谷村総合情報センター入口付近の「ゆんたく広場」をのぞむ イメージ図

図書館は社会教育の中でも多くの方が利用する施設で、いわゆる「知の拠点」となる場所です。

生涯にわたって自主的な学習を行い、地域の実情に応じた情報提供サービスを行うことなど、総合情報センターには、よりよい充実した施設であることが求められています。

いつでも気軽に利用できる施設を整備することは、働き盛りの世代や学生の利用増を図るだけではなく、民間施設との連携により、多種多様なイベントの開催や、カフェを併設した居心地のよい空間を演出するなど、これまで図書館に足を運ぶ機会がなかった方々の利用が期待できます。



村役場南側の整備イメージ図

新しい図書館は

さらにわくわくが生まれる場所！

利用者の意見を取り入れた
新しい図書館へ

平成11年に旧議会棟を改築して整備された現在の図書館は、改築から20年を超え、老朽化などさまざまな課題が出てきました。

本村では、平成24年3月に策定した（仮称）読谷村総合情報センター基本計画報告書や利用者アンケートを基に、新たな図書館整備計画を作成しました。

今回の事業では、建設費の削減や更なる図書館サービスの向上を期待し、PFIと呼ばれる手法を採用して情報センターの設計・建設・維持管理・図書館運営業務を二括して民間企業に発注することとしました。

令和3年度、審査委員会を経て3つの提案グループから村内企業を中心とする黄金環株式会社を選定しました。

総合情報センターは、村立図書館、村史編集室、青少年センターおよび行政文書保管庫と、民間企業の提案によるカフェと物販店舗（ポップ・アップショップ）を併設した施設です。施設周辺に広場や水辺空間、ホームセンターなどを設置します。

新しい図書館は、役場南側に移動し、開館日数や時間も拡大します。これまで利用しづらかった村民の皆さまも足を運びやすくなります。



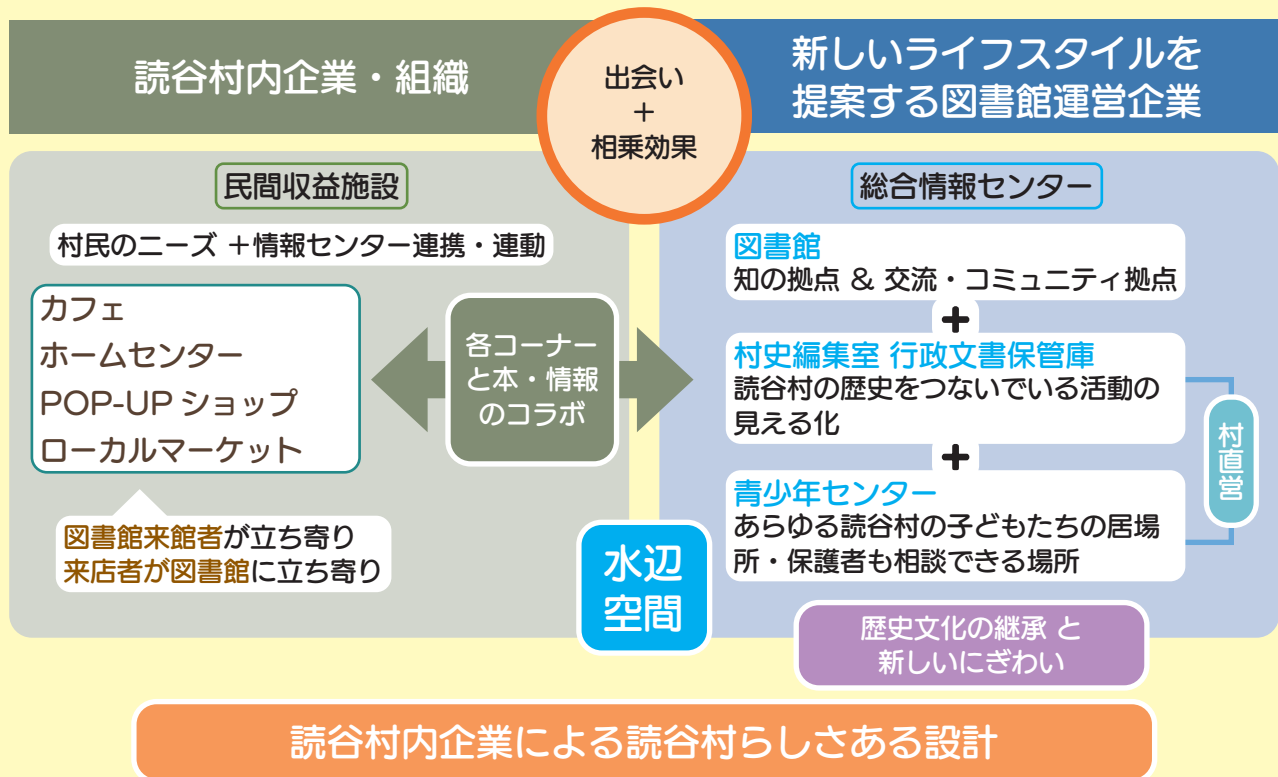
「水辺空間」のラフ画

カフェでゆったりと読書を楽しんだり、無音の集中ゾーンで調査研究や学習等に集中したりと、様々な用途にあつた利用ができます。

キッズゾーンでは絵本を楽しんだ後、すぐそばにある水辺空間で水遊びをして、お腹がすいたら木陰でお弁当も楽しむなど、1日中楽しめる新たな子育てスポットが生まれます。

村史編集室には、県内に1冊しかない貴重な図書や資料が保管されています。新しい図書館では、図書館で学んだことを、村史編集室の図書資料を使って更に知識を深めることがより容易になります。

総合情報センターに関する事業の特徴



利用シーンの例 ※使用している写真・イラストはイメージです。



夜も開いてるから仕事帰りに調べ物ができて便利。



郷土資料等を調べてレポート作成。



本に囲まれながら集中して勉強。



お腹が空いたら
ローカルマーケットで
お買い物。



水辺空間で
じゃぶじゃぶっと！



ホームセンターが
とりにあるから
夏休みの宿題もバッチリ！



コーヒーを飲みながら
のんびりとリラックス♪



広めのキッズゾーンには
読みたい本がいっぱい！

現・新図書館の比較 ※新図書館のデータは現計画時点のものです。

	現図書館	新図書館
建設地	読谷村波平 37番地	読谷村座喜味 2901番地
延床面積	944.69㎡ (1階 439.40㎡、2階 505.29㎡)	2,195.31㎡
階数	地上2階	地上1階
収容冊数	約12万冊 ※現在の収容冊数	約24万冊 ※最大収容冊数
座席数	70席 程度	300席 程度
休館日	毎週火曜日、資料整理日(第4木曜日)、 祝日、慰霊の日、特別資料整理期間、 年末年始	慰霊の日
開館時間	月・水・木・金 10時～19時 土・日 10時～17時	10時～22時
図書貸出利用者	読谷村内および嘉手納町内在住者、 読谷村内通勤通学者	読谷村民他、読谷村を訪れる 日本国内に住所がある方全員
その他		カフェ、ポップアップショップ

これが 新しい図書館の すがただ!!



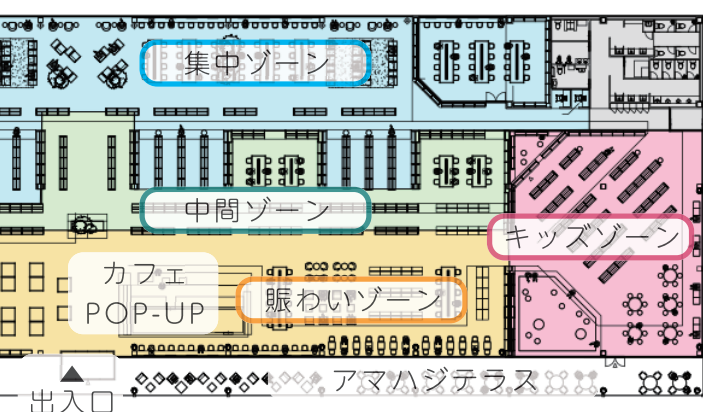
集中ゾーン



キッズゾーン

読谷村の未来を担う子ども達のためにキッズゾーンを大きく配置します。

施設全体に「知の拠点」のイメージが広がるよう、ガラス面を多くし、子ども達の学ぶ姿が見渡せるようにします。



ローカルマーケット

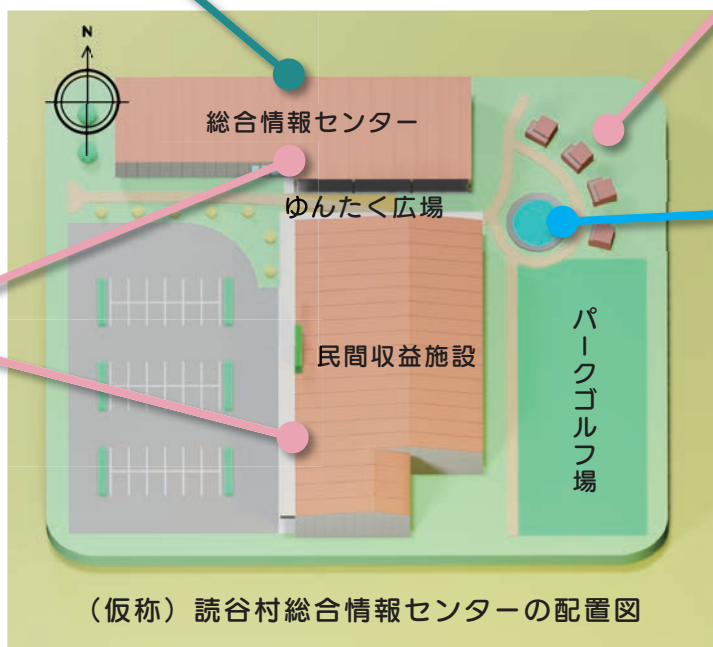
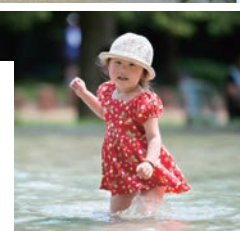


飲食や小売等、小規模店舗を、水辺空間の周辺に4店舗設置します。

水辺空間



アマハジテラスや水辺空間が一体となった三本ガジュマルの緑影等、**緑と風を感じつつ心地よく過ごせる空間**を演出。パークゴルフ場と一体的な広場をつくります。



(仮称) 読谷村総合情報センターの配置図

※図面は計画中のものです。 ※使用している写真・イラストはイメージです。

総合情報センター

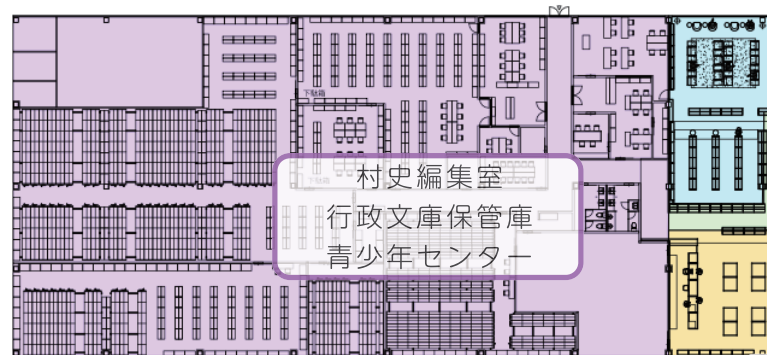


総合情報センター内には、コミュニケーションの場としても利用できる「賑わいゾーン」、無音の空間を創り上げ、調査研究や学習等、集中した学びに対応した「集中ゾーン」、そしてそれらをつなぐ「中間ゾーン」とエリアを分け、様々な用途にあった図書ゾーンを利用することができます。



賑わいゾーン

多くの村民に多様な理由で図書館を利用してもらう、その象徴としてカフェをメイン入口近辺に配置します。



総合情報センター 平面図



村史編集室、行政文書保管庫、青少年センターは、貴重な資料の取り扱いやプライバシー等セキュリティ環境が必要な機能はできるだけ隣接させ、安全管理と効率的な運営が行えるように配置します。

民間収益施設



総合情報センター館内には「カフェ」「POP-UP ショップ」、別館には「ローカルマーケット」「ホームセンター」の4つの民間収益施設を計画しています。

POP-UP（ポップアップ）ショップとは、読谷村の魅力ある商品（モノ・コト）を販売する店舗です。

総合情報センターのことが もっと知りたい

10の質問

Q2 新しい図書館は何が変わるの？

A 施設が大きくなり、開館時間や日数が増えます

面積や最大収容冊数が約2倍になり、よりたくさんの図書を所蔵できるようになります。

休館日は慰霊の日のみとなり、開館時間は10時から22時までと拡大し、さらにカフェを併設することで、これまで以上に気軽に図書館を利用することができるようになります。

Q1 どうして新しい図書館をつくるの？

A 建物の老朽化によることや、図書の所蔵スペースが不足しているからです

今の図書館は、旧議会棟を改築して20年以上が経過しており、雨漏りなど建物の老朽化が進んでいます。

また増え続ける図書を所蔵するスペースも足りなくなっているため、新しい図書館をつくる必要があるのです。

Q4 図書館建物内で飲食ができますか？

A フタ付きの飲み物ならOK！

フタ付きの飲み物であれば、図書館内どこでもお飲みいただけます。

カフェで提供されるお食事はカフェ内で食べることができます。

Q3 読谷村内の人じゃなきゃ、本を借りることはできないの？

A 読谷村内以外の人も借りることができます

新しい図書館では、村民を始め、日本にお住まいのすべての方にご利用いただけます。

Q5 なぜ民間企業に運営をまかせるの？

A より質の高いサービスの提供が実現できます

民間企業に運営をまかせることにより、開館時間・日数の拡大、さらなるレファレンスサービス*の強化や多種多様なイベント、村史編集室との連携強化など質の高いサービスの提供が可能となります。

*レファレンスサービス：調べたいことや探している資料などの質問について、必要な資料・情報を案内するサービスのこと



※賑わいゾーンから集中ゾーンをながめる イメージ図

Q7

図書館の本は誰が選んで
廃棄するときはどうする
の？

A

民間業者の選書・廃棄を村が
チェックします

民間業者が本の選書リスト・廃棄リスト
を作成し、村が確認・決定後、購入・
廃棄を行います。

Q6

新しい図書館の運営は
誰がやるの？

A

くがにかん
黄金環株式会社およびCCC
が行います

黄金環株式会社は、（仮称）読谷村
総合情報センター整備事業を実施
するために村が選定した民間会社で
す。

カルチュア・コンビニエンス・クラ
ブ株式会社（CCC）は、黄金環株式
会社から図書館運営業務を受ける企
業で、武雄市図書館（佐賀県）をは
じめ、全国で7つの図書館を運営す
る民間会社です。

Q8

新しい図書館では
講座などのイベント
は開催するのですか？

A

多種多彩な楽しいイベント
を開催します

作家や著名人の講演会イベントや、
村民が講師となり互いに教え合うイ
ベント、子ども向け多言語による読
み聞かせや着ぐるみイベントなど、
さまざまなイベントの開催を予定し
ています。

Q9

予算はどのぐらいかかるの
ですか？

A

約37億円を計上しています

この予算は建築・設計費だけでなく、20年
間の維持管理費および運営費も含まれた額
となっています。

※収入については、民間収益施設土地貸付
地代（30年）で約6.4億円、その他固定
資産税やカフェ、POP-UPショップの家
賃収入などがあります。

Q10

開館はいつですか？

A

令和7年度（2025年度）
開館予定です

令和4年度から設計と建設工事を行
い、令和7年10月頃の開館を計画
しています。